Brand NEWS DESIGN

日本で最初のワゴン車専門カー用品店

1994年7月。日本で最初のワゴン車専門カー用品店としてスタートしたニューズ。カスタムのベース車はスポーツカーやセダンという時代に、ステーションワゴンやミニバンをカスタムするという新たな〝提案〟からニューズは始まった。プロショップであると同時に、オリジナルパーツの開発も手掛け、初となるボディキットは「NEW'Sオリジナルバージョン」ワゴンRとして、スズキ自販福岡より発売される。昨今カスタムの定番となりつつある、新車コンプリートカーの形態が、すでに自動車ディーラーとのコラボレーションにより実現されていたとは驚きだ。

1999年には、一世を風靡し、ニューズの名を全国区に押し上げたエアロブランド「SCENIC DRIVE（シーニックドライブ）」が誕生する。アメリカ西海岸の薫りを感じさせるポップで大胆なカスタムは、当時で言うところのアメリカンスタイル。シボレー・アストロやカプリスなどで流行っていたスタイルを国産車に投入し、S-MXやオデッセイ、ステップワゴン、エスティマなど、主流のミニバン・ワゴンを網羅し、瞬く間に人気を集めていった。カスタムのブームがアメリカンからラグジュアリーへと進化する過程においても、シーニックドライブは先導してデモカーのボディカラーをベージュに変え、L・A・ラグジュアリーという新たなスタイルを具現化。多くのファンの心を掴んでいった。

28年前からワゴン・SUVのカスタムシーンを創り続けてきた
生粋の“提案型”カスタムブランド

2003年、ニューズが手掛けたシーニックドライブ・S-MX。ボリューム感溢れるエアロデザインにゴールドのボディがいかにもラグジュアリー。フルディスクの15インチ、ムーンアイズ・スムーシーや、ホワイトリボンタイヤ、ビレットインサートなど懐かしくもあるが、今見ても渋い。ローダウンはACCのエアサス。

SCENIC DRIVE

S-MX

内装カスタムもすでにハイクオリティ。ダッシュボードはFRP製のワンオフ。オーディオ機器をリッド内に隠すことで、すっきりとしたスムージング内装を実現。シートもお洒落。

当時力を入れていたS-MXは、様々なデモカー、ユーザーカーを制作。写真は、スイートシャーベットブルーにオールペイントし、大胆なハイビスカスデカールを入れるなど、後のシーニックドライブに通ずるカスタムを施す。スタイルワゴン1999年6月号。

1999~

オデッセイ（RA6）

前ページのS-MXとともに、シーニックドライブの代表的車種となったRA6オデッセイ。アメリカンともVIPとも一線を画すL.Aラグジュアリースタイルを具現化し、当時の新世代カスタムをけん引。今見ても十分アリなエアロデザインはもちろんだが、当時ハイエンドユーザーに人気を誇ったジオバンナ・パレッタをいち早くアメリカから直輸入する先見性もすごい。

シーニックドライブ

SCENIC DRIVE

NEW'S初のエアロブランドは大口径が似合うL.Aラグジュアリー Style

スポーツカーやセダンなど、多様な車種に向けたエアロを手掛ける大手メーカーが持ち得ないワゴン専門ショップならではの視点を活かし、100%ワゴン用として作られたボディキットがシーニックドライブ。同製品の形状はフルバンパータイプが基本。外側に張り出した、いわゆるハカマ型が主流とされていた当時、内側に巻き込んだ曲面デザインやフロントアンダー部分に設けられた2つのディンプル（窪み）がシリーズ共通のアイキャッチとされていた。

シーニックドライブが注目を集めた要因はその独創的な造形センスはもとより、装着車両のイメージを根本から一新させる「トータルコーディネイト」という発想にあった。このため装着デモカーはすべて全塗装が施され、パーツ単体の主張性よりクルマ全体から醸し出される世界観を重視。そのカラーもシャーベットグリーンやシャーベットイエロー、ベージュパールといった、セオリーに捉われない大胆なトーンが選ばれていた。さらにそこに組み合わされていたのが、ジオバンナをはじめとする当時の最先鋭ブランドのホイール。「アメリカンカスタム」という広義なドレスアップスタイルから派生した「ラグジュアリー」という新ジャンルへの解釈がまだ曖昧だった時期に大口径ホイール、内巻きエアロ、クロームパーツというコンセプト面における定義づけを明確化。ラグジュアリーカスタムという、車種やカテゴリーの枠を超えた一大ムーブメントを市場に根付かせるための功労者としての役割も果たした。さらにその派生モデルとして、迫力と重厚感を前面に強調させたシーニックドライブ・VIPライン（ページ下段）。ブラックのオデッセイ、ステップワゴン）が登場。ラグジュアリーという方向性をキープしながらも、さらなるアレンジの可能性を具現化させた。

エスティマ（30系）

bB（20系）

オデッセイ（RA1）

ステップワゴン（RF1）

L.Aラグジュアリーを基本としていたシーニックドライブから派生したVIPライン。シーニックドライブらしい丸味を帯びたエアロデザインを残しつつ、バンパーのクロームモールや大型フォグなどを加え、重厚なイメージをプラスする。当時のVIP系ブランドの中でも個性的な存在であった。

オデッセイ（RA6）

ステップワゴン（RF3）

2005～

ニューズ

NEW'S

デザインを大胆にチェンジ

LUX LINE
［ラックスライン］

SPA LINE
［スパライン］

COMBAT LINE
［コンバットライン］

ワゴンカスタムの先駆者として軽自動車からLクラスミニバンまで、幅広い車種を手掛けてきたニューズ。
ベース車の持ち味を最大限に引き出すデザインテクニックは、現代の目線で見直しても旧さを感じせない。

2009年6月カスタムモールOPEN

全てを1エリアで完結する ワンストップショッピング カスタムモール化

移転、多店舗化と、絶えず成長を続けて来たニューズがその集大成として福岡市東区に完成させたのがニューズカスタムモール。ドレスアップから車両販売まで、あらゆるニーズに対応している。

COMBAT LINE
ワゴンR

COMBAT LINE
プリウス（30系）

SPA LINE
ヴェルファイア（20系）

時代の移り変わりと共に多様化、細分化が進むカスタマイズの分野において、設立から数年という期間でミニバン・ワゴンのエキスパートとしての評価を不動のものにしたニューズ。そんな中、2010年頃に行われたのが、同社が手掛けて来たオリジナルアイテムのブランディングの再構築。洗練されたアメリカンテイストで1つの時代を創ったシーニックドライブはその役目を終え、ボディキットをはじめとする各アイテム群は「ニューズデザイン」へとネーミングを統一。同社が先鞭をつけたラグジュアリースタイルの演出手法もよりシンプル志向にブラッシュアップされ、ニューズデザインシリーズの「LUXライン」として再登場を果たす。

続いてリリースされたのが、20系アルファード／ヴェルファイア用のボディキット「SPAライン」。SPAとは同社が新たに提唱した高級感と機能美との融合を表現したカスタムコンセプト、ユーロスパルタンに由来。それまでのラグジュアリー路線に対し、純正バンパー+αのレベルに抑えられたエアロ本体のサイズや丸型ツインフォグなど、スポーツライクなディテールを随所に盛り込んだデザインを特徴としていた。時期を同じくしてスタートしたニューズのホイール事業部、GATE's（ゲイツ）の鍛造ホイール、ヴァルケンDTMを組み合わせたデモカーは大いに好評を博し、同仕様のコンプリートカーの製作依頼が数多く寄せられたという。

これに加えプリウス、ワゴンR用として、ワイドなダクト開口部や砲弾型のフォグランプフレームなどフロントバンパー周りの造形をよりアグレッシブなものとした「COMBATライン」も新登場。ニューズデザインのエアロシリーズは、それぞれ異なった個性を備えた3つのモデルラインを軸とした展開が進められることとなった。

LUX LINE
ステップワゴン（RF3）

LUX LINE
オデッセイ（RB1）

SPA LINE
オデッセイ（RB1）

ラグジュアリーからユーロへ
ブームの移り変わりをシリーズ化で牽引

SPA LINE
アルファード（20系）

超大口径カスタム

ミニバン・SUVで大口径&クローム化 15年前から22インチを提案

ワゴンカスタムのブームが来るという強い思いを元に始まったニューズ。先見の明は見事に当たり、ブランドの認知度はどんどんと高まっていった。そして、その先見性はプロショップ"ニューズ"としても、カスタムシーンに大きな影響を与えてきたのだ。その1つが、大口径ホイールカスタム。2000年代の始まり、まだカスタムシーンでは19インチや20インチが大口径と憧れられていた時代。ニューズはすでに、北米のラグジュアリーシーンを取り入れ、30系ハリアーに向けて22インチを提案していた。当初はホイールを用意できても国産SUVに履ける22インチタイヤのサイズ設定がない時代。そこでトーヨータイヤの海外向けモデル、プロクセスやピレリに目を付け、いち早く超大口径を実現していたのだ。もちろんSUVのみならず、ミニバンにおいても同様。当時流行っていた「クローム系ホイール」を「大口径で」という圧倒的な存在感の組み合わせをもって、ホイールカスタムのスタンダードを作り上げた。そのノウハウもあり、2010年には、オリジナル鍛造ホイールブランド「Balken(ヴァルケン)」がデビュー。ハイクオリティ、ハイデザインにこだわった足元の提案を今なお続けている。

2004年／19インチ
ステップワゴン(RF3)×ワーク・LS207

2003年／20インチ
オデッセイ(RA6)×レーベンハート・LD1 LX

2009年／22インチ
アルファード(20系)×レーベンハート・LS5

2005年／22インチ
ハリアー(30系)×レーベンハート・LD6

当時ラグジュアリーホイールの代名詞的存在だったレーベンハートのLD6。フルクロームの煌びやかさと深いリム、22インチの超大口径が抜群のインパクトを放つ。この30系ハリアーは、ニューズ ラグジュアリーラインのデモカー。タイヤはピレリのPゼロ ロッソ(265/30)。

2010年にはNEW'S初のホイールブランド"Balkën"始動

鍛造を主としたハイエンドブランドとして登場したヴァルケン。ヴァルケンブラッシュドと呼ぶ独創的な風合いのカラーを取り入れるなど話題に。現在では、通常モデルに加え、アルパインスタイルエディションもラインアップ。

ニューズ代表として、時代やトレンドの移り変わりなど数々の荒波を乗り越えて来た今村氏。常に一歩先を目指す厳然とした姿勢の中にも、時折見せる朗らかな表情やウイットに富んだ話術は周囲の人々を惹きつけ、いつしか「BOSS」と呼ばれるように。1994年の創業開始から27年。その足跡を振り返りつつ、次なる一歩に向けた意気込みについて話を聞いた。

「90年代初頭と言えば、マツダ787Bが国産車で初めてルマン24時間レースの頂点に立ち(1991年)、FD型のRX-7や80スープラが出て来るなど、アフターマーケットはスポーツカーやセダンがその牽引役を務めていました。でも、当時とある企業の企画室で仕事をしていた自分には、なぜかピンと来なくて(笑)。そんな時、海外研修として訪れたヨーロッパで、強烈なカルチャーショックを受けたんです。メルセデスやBMWというと、日本では高級セダンのイメージが強いけど、ドイツでは「TE」や「ツーリング」などのワゴンタイプがかなりの台数を占めていました。その頃、国内でワゴンといえばスバルの孤軍奮闘状態で、アコードワゴンがアメリカから逆輸入という形で入っていた程度。他はまだバン、カーゴといった商用車との線引きが曖昧でした。それゆえ、ドイツで目にした日常の生活シーンの中にワゴンが溶け込んでいる光景がやたらとカッコ良く見え、直感的に「この流れは5年後には日本にも来るぞ」と思い、帰国後資料を作り、会社にワゴン用パーツの拡充の必要性を訴えました。しかしいくら話をしても反応は今ひとつ。それなら自分自身でやるしかないと、独立を決意しました。

これがニューズ誕生のきっかけです。ワゴン専門店という旗を掲げる以上、言って る本人がフツーのファミリーカーに乗っていては説得力に欠けると思い、貯金をはたいてボルボの740ターボワゴンも買いました。もちろん商売の経験など無く、あったのは「ワゴンが来る!」という心の中の確信だけでした」

そして94年7月、福岡市南区のとある一角にニューズがオープン。SNSなど一切無かった時代、唯一のRV(レクリエーショナルヴィークル)専門誌の情報コーナー欄に「福岡にワゴン専門店が誕生」という小さな告知が掲載されただけにも関わらず、続々と来店客が。「ワゴンだけに絞った商売なんて」というネガティブな声も聞かれた中、「NEW'S」のステッカーは瞬く間にワゴンオーナー達のステイタスとなり、その名は福岡、全九州、全国と広がっていった。

「一から十までの作業を一人の職人が請け負う「ザ・俺の店」ではなく、あそこに行けば何か役に立つ情報がある、自分のクルマをスタイリッシュにコーディネイトしてくれるお店、というスタンスは、現在のニューズにも通じています。軌道に乗った、なんて感覚は今でもありませんが、それでも創業間もない頃からオリジナルエアロも作って来ましたね。なぜなら、ワゴンに似合うエアロが無かったから。無いもの、欲しいものを自分で作るって、やっぱり楽しい。常々、私のモチベーションの原動力となっているのは変化と創造。誰も手をつけていない分野に先頭を切って手をつけたり、それまでやっていたことをガラリと変えるってメチャクチャ大変だし、組織が大きくなればリスクも大きくなります。楽をしたいなら後追いに徹して、ソレっぽく真似するのが一番。でも、それじゃ面白く無い。常に好奇心と情熱を忘れずに。どれだけ苦労をしても、そこをやり遂げようという気持ちがすべてのエネルギーになるのだと思います」

ワゴンに始まりミニバン、SUVと、今やクルマのカテゴリーという概念を超え、カーライフ全般にまつわるニーズをフォローする企業に成長したニューズ。2017年にはアルパインとの共同プロジェクト、アルパインスタイル(P12-13参照)が稼働。今村BOSSの「誰も手をつけていなかった分野へのチャレンジ」のリストにまた一つ、新たな実績が記された。

「単純にショップとコラボするだけなら関東、関西にも素晴らしいお店はたくさんあります。そんな中、弊社の特色を理解して頂いた上で必要なパートナーとして選んでくださったことには本当に感謝しています。弊社の強みとして培って来たリソースをこれまで以上に生かしたいと思います。かつては「50歳でセミリタイア」みたいなことを公言していた時期もありましたが、アッという間に過ぎましたネ。自分の中では1つのラインを決めていますが、引き際については今は何とも言えません。新しいことへのワクワクする好奇心が無くなったらそれが一つの終着点なんでしょうが、まだまだ毎日ワクワクしてますからね」

BOSS
今村 仁
Hitoshi Imamura
株式会社ニューズ 代表取締役

福岡のショップから一大ブランドへ

最前線を走る BOSSのこだわり

オーディオカスタム

2004年／ステップワゴン（RF1）

セカンドシートを外しリムジン化
9モニター＆5.1chの壮観シアター

初代ステップワゴンをベースに、2列目を取り払い、広々としたスペースでビジュアルを楽しめる5.1chリムジン仕様。アルパインのユニットをメインに作り上げ、パワーアンプ、サブウーファーはワンオフインストール。柔らかなベージュ系でまとめた内装ともマッチする。

1 足を伸ばしてゆったりとくつろげるリムジン仕様。右サイドにはアルパインF#1ステータスやミューディメンションのパワーアンプをFRPを使いワンオフディスプレイ。2 ヘッドユニット、インダッシュモニター、プロセッサーはアルパイン製。当時の重厚なユニットデザインは今見ると新鮮。ユニット奥にワンオフインストールされたスピーカーは5.1ch用のセンタースピーカー。3～5 車内は張り替えや塗りでベージュやゴールドなど同系色で統一。

マルチモニター・5.1ch・リムジンシアター
ビジュアルを魅せるオーディオ＋αのカスタム

ニューズの先見性は大口径ホイールのみにあらず。今日のアルパインとの強固なタッグは、ニューズが培ってきたオーディオカスタムの歴史も大いに関係する。車載用オーディオとしてDVDが注目されたのは、2000年前後。プロショップとしてのニューズは、そもそもオーディオカスタムにも強かったが、カーオーディオにビジュアル要素が追加されたことで、さらに勢いを増していった。それが、5・1chシアターシステムの構築や、多くのモニターをインストールするマルチモニター化、さらに後席をシアタールーム化するリムジン仕様だ。

まだ国内のヴィジュアル製品のラインアップが乏しい頃、ニューズはアルパインのUSモデルを入手し、デモカーに投入。ビジュアルを車内で楽しむ、魅せることを提案し始めた。2001年には、アルパインからF#1ステータス（エフナンバーワンステータス）というハイエンドシリーズが登場。当時20万円以上するDVDプレーヤーやハイスペックなパワーアンプ、スピーカーをラインアップ。それに呼応するように、ニューズでは、アルパイン製品で統一された高音質かつビジュアル性の高いデモカーやユーザーカーが次々と作られ、誌面やイベントシーンを賑わしていった。

ニューズのオーディオカスタムは、魅せる力の強さも魅力。ただオーディオをインストールするだけではなく、シートや内装の張り替えも伴ったトータルコーディネイトや3列ミニバンならではの広さを活かしたシアタールーム化により、多くの人が惹きつけられたのだ。

2005年／ハリアー（30系）

スタワゴ連載用の企画車も フルアルパインでした!

2004年～2005年にかけてスタイルワゴンで連載していた「ハリアーD-UP計画」。ニューズで30系ハリアーのカスタムを進めていく連載だったが、その企画車のオーディオはフルアルパイン。質感溢れるシルバーボディのユニットが、ハリアーの上質な空間にマッチ。

上部のメインユニットとHDDナビの2DIN構成。メインユニットIVA-D300は、1DINに内蔵アンプ、DVDスロット、7インチインダッシュモニターを備えた人気の多機能モデル。アームレスト上のDVDプレーヤーは後席モニター用。

2011年／ヴェルファイア（20系）

魅せるギミックを存分に使い マルチLEDで光の変化も楽しむ

HID、LED、CCFLなど光モノが注目されていた頃、ニューズが手掛けたヴェルファイアは、得意のカスタムオーディオとともに、光のギミックを多用し、魅せる力を放っていた。ここでもアルパインとのタッグが活かされ、アンプ、スピーカー類はアルパイン製を起用。

自動的に色が変わっていくマルチLEDを使い、ブラックホールやアクリルのスリット加工で多彩な光の演出を図る。ラゲッジを埋める圧巻のボックスにはアルパイン製のサブウーファー、パワーアンプが備わる。2列目前にもワンオフのスピーカーボックスをセット。

アルパインスタイル

ALPINE STYLE

内外装＋AVの理想的コンプリートカー

車種別専用のオープニング映像を備えたアルパインの大画面カーナビ、BIG-Xに加え、オリジナルのシートカバーやフロアマット、アンビエントライトなど、車格をワンランクアップさせる装備を車種毎に提案。

2017年4月 NEW'S内に ALPINE STYLE第1号店

記念すべきオーソライズドディーラー1号店となった、アルパインスタイル福岡R3。現在は全国4ケ所に店舗を展開。1月下旬には5ケ所目となる埼玉R4店のオープンが予定されている。

アルファード（30系）

バンパータイプもラインアップ

2020年末、現行30系アルファードに向けて、新たなバンパータイプのエアロパーツがラインアップ。アグレッシブでゴージャス、高級ミニバンならではの風格を備えた次世代のエアロフォルムを創り出した。

カスタム&ドレスアップの分野において数々の実績を築き上げたニューズと、カーAVのトップブランド、アルパインとの合同プロジェクトとしてスタートしたアルパインスタイル。この企業形態の垣根を超えた画期的なブレイクスルーとも言える試みはたちまち話題を集め、2017年の東京オートサロン会場、北館エリアで行われたプレゼンテーションの場には自動車専門誌の他、経済関連媒体のプレスの姿も多く見受けられた。

モノトーンで統一されたブースではヴェルファイア、ハリアー、ヴェゼル、CX-3など4台ものコンプリートカーが一挙にデビュー。薄型ダクトがアクセントとなったハーフタイプのエアロパーツやBIG-Xを核とした車種専用のオーディオシステム、上質なインテリアなど、オーナーの所有満足度をくすぐる個性豊かなアイテム構成はスポーツ、スパルタン、シャープ、シンプル、スマートという「5Sコンセプト」に基づいたもの。ファッション指向だけに留まらず、翌年からは、セーフティを意味する6番目の「S」として、コーナーカメラなど安全装備への追求も加わった。

さらに注目されたのが、その販売方法。購入後のアフターフォローやアルパインスタイルとしてのクオリティを厳格に維持すべく、取り扱いは認定オーソライズドディーラーに限定。1号店として選ばれたのは、ニューズカスタムモール内の「アルパインスタイル福岡R3」。以後、横浜、大阪、名古屋と全国で4店舗が展開中。2022年1月には埼玉へも出店する。互いをリスペクトし、得意とするフィールドにおけるパフォーマンスを存分に発揮させながらも、改善が必要とされる課題には両者が協力態勢で臨むことで解決への道筋を模索。業態、地域など旧来のセオリーを度外視した両者による大胆な取り組みは、極めて理想的なシナジーをもたらしている。

カーAV“アルパイン”との協業
コンプリートカーを軸とした新たな挑戦

ハリアー（80系）

ヴェルファイア（30系）

アルファード（30系）

CX-8

趣味とクルマを繋げる アウトドアカスタム

2017年よりアルパインスタイルとして協業をスタートさせたアルパインとニューズ。今年2022年は、また新たな1歩を踏み出す。これまで主軸となってきたアルファード&ヴェルファイア等ミニバン&SUVのインチアップカスタムに加えて、キャンプなどの趣味が伴うアウトドアシーンでのカスタムへと足を踏み入れる。カーAVはアルパイン、ボディパーツはニューズデザイン、ホイールはヴァルケンとすることを再定義しつつ、アーバンでもアウトドアでも、どんなライフスタイルに対してもカスタムの楽しさを提供できるコンプリートカーブランドとして更なる躍進を目指す。

2021年12月にオープンしたアルパインスタイル名古屋155では、先だってアウトドアカスタムに力を入れることを宣言。ニューズデザインは新たなシリーズ、ACラインを立ち上げ、すでにラインアップされているジムニーシエラ、プラド、RAV4に加え、ジムニー、ランドクルーザーのボディパーツの開発を進めている。さらに、ヴァルケンにおいてもランクル用鍛造22インチや、16／17インチのオフ系ホイール、ローツェのリリースが控えている。アウトドアを含むカーライフでの新たな提案も含め、カスタムシーンにおいて、間違いなくアルパインスタイル、アルパイン、ニューズはシーンの最先端をけん引してくれるに違いない。

次なるストーリーを創造する NEW'S×ALPINE STYLEは カスタムの"最先端"へ

ジムニー（JB64W）

厳つさじゃないお洒落さ
アウトドアに似合う
クロスオーバースタイル

AC LINEがデビュー

AC LINE

ジムニーシエラ（JB74W）

RAV4（50系）

ランドクルーザープラド（150系後期）

新たなアウトドアシーンへの提案として、本格的なキャンプとまではいかないが、海浜公園、野原、砂浜、山で一定時間過ごしたいよねというニーズに対し、道中または現地での魅力を伴うカスタムを創造していく。

東京オートサロン2022は過去最大のALPINE STYLEブースが出現

ヴァルケンも次を狙う ランクル用鍛造&オフ系16/17インチ

LSM FORGED_R

300系ランクル専用として開発中のLSM。ヴァルケンらしい優れたデザインと鍛造故の質感、高剛性を備えた22インチ。

ローツェ

LHOTZE

ヴァルケン初のオフ系ホイール、ローツェも開発中。無骨ながらも繊細な9交点のメッシュデザインでお洒落な足元を生む。16、17インチ予定。

ランドクルーザー(300系)

ALPINE STYLE authorized Dealer

アルパインスタイル福岡R3

福岡県福岡市東区下原1-22-25
TEL 092-663-5680

アルパインスタイル大阪171

大阪府茨木市上郡1-1-3
TEL 072-640-6500

アルパインスタイル名古屋155

愛知県一宮市常願通8-5-1
TEL 0586-52-2286

アルパインスタイル横浜246

東京都町田市南つくし野2-30-12
TEL:042-850-7282

2022年1月22日OPEN

アルパインスタイル埼玉R4

埼玉県越谷市宮本町5-256-1
TEL 048-984-7447

営業時間:10:00～19:00
定休日:毎週水曜日、第1･3･5火曜日

NEW'S

住所:福岡県福岡市東区下原1-22-24
TEL:092-663-8185
営業時間:10:00～19:00
定休日:毎週水曜日、第3火曜日